

●「アンパンマンで高知の活性化」(アイデア賞受賞)

今回、私たちは、観光客を増やすことでその経済効果を期待し、高知県の活性化を図ろうと考えました。そのためには、県外からでも足を運んでもらえるような魅力的な施設やイベント、食べ物が必要です。高知をより活性化させ、大人から子どもまで楽しめる町へと発展させるためには、何を利用し、またそれを県内外にどのような形でPRしていけばよいのかを考えました。そこで着目したのが、高知県出身の漫画家であるやなせたかしさんの作品、アンパンマンを前面的に高知県のシンボルとして活用していく方法です。ゲゲゲの鬼太郎を前面に押し出した鳥取県境港市の水木しげるロードを参考にし、子どもから大人まで馴染みの深いアンパンマンのネームバリューを活用することで、多くの人々を高知に呼び寄せ、県内外から注目を集めることができるのではと考えました。

まず、現在どのような形で高知県内でアンパンマンが活用されているのかを調べてみました。原作者のやなせたかしさんの出身地である香美市香北町のやなせたかし記念館アンパンマンミュージアムをはじめとして、南国市のやなせたかしロード。また身近なところではアンパンマン列車や電車、バス、そして高知駅のアンパンマンテラス、そのほか至る所にキャラクターが活用されています。全国的にもいくつかのアンパンマン関連施設があり、たくさんのお客さんが訪れているようです。

この調査結果を基に感じたことは、高知県内でのアンパンマンを活用した取り組みは、それぞれが素晴らしい内容ですが、実際に県外客へのアピールや認知という点では、残念ながら高知県の活性化に結びつかない大きな課題があると考えます。その課題を改善し、アンパンマンを活用するために、普段から子どもと接している保育士さんにアンケートにご協力いただきました。「県外の観光客に対して、アンパンマンを利用したどのような施設があればよいか」という質問に対しては、「キャラクター満載のレストラン、高知限定のグッズを多数取り扱うショップ、キャラクターと遊べるテーマパーク、みんなが利用できる図書館」などの意見が多く寄せられました。また「ミュージカルショーやパン作りが体験できるジャムおじさんのパン工場、SLマンやバイキンUFO型の乗り物、楽しく学べるミミ先生の小学校」などの意見もありました。私たちは、アンケートや調査を基に話し合った結果、これまで以上にアンパンマンのキャラクターを活用し、高知県全体をアンパンマンで溢れさせることが高知県のイメージアップに繋がるという答えにたどり着きました。

そこで二つのことを提案します。まずは、高知市内をアンパンマンのテーマパーク化するという提案です。その具体案として、一つ目に西武跡地へのアンパンマンミュージアム型複合施設の建設を考えています。1階を高知限定のグッズを取りそろえたショップやレストランを含むショッピングモールフロア、2階・3階を親子でパン作りなどを体験できるコーナーやアンパンマンの世界を疑似体験できるジオラマコーナーなどのミュージアムフロア、4階を子育てや食育に関するさまざまな悩みや相談などができる子育てフロアにするなど、子どもから大人まで楽しく過ごせる施設があればと思います。私たちが提案するような施設が

アンケート結果

必要な施設

キャラクター満載のレストラン
高知限定グッズ中心のショップ
アンパンマン達と遊べるテーマパーク
みんなが利用できる図書館

できれば、(高知市文化プラザ) かるぽーとや(はりまや橋観光) バスターミナルとの連携を図ることができると思います。

二つ目に、高知駅からはりまや橋までの歩道と帯屋町アーケード街をアンパンマンロード化することを考えています。水木しげるロードや香北町、南国市などの取り組みにない、子ども目線のモニュメントを設置したり、装飾だけでなくマンホールや信号機、街灯など交通に関して必要不可欠なものにも広くアンパンマンを利用できたらと思います。そうすることによって、アーケードの活性化や高知城、ひろめ市場などへの相乗効果が期待できます。

三つ目に、中央公園やわんぱくこうちでゴールデンウィークや長期休暇を狙い、定期的にアンパンマンのミュージカル的ショーを行いたいと思います。これはアーケード内で買い物をする観光客の増加やわんぱくこうちへの移動など電車利用の機会を増やすことで、さまざまな経済的相乗効果の期待ができるのではないのでしょうか。また、クリスマスイベントとして、ショーやイルミネーションなども有効であると考えます。

二つ目の提案は、高知県内の大学へのアンパンマン学科の設置です。アンパンマン学科とは、アンパンマンをはじめとするマンガやアニメをさまざまな視点から捉えることで、人間としての幅を広げ、柔軟な発想や受容性を養い、より自分らしく生き抜く力を持った人間の育成を目的とした学科です。アンパンマン学科ではアンパンマン生活コースとアンパンマンマネジメントコースの二つに分かれ、アンパンマン生活コースではアンパンマンを利用した子どもの心理についての学習を深め、アンパンマンのアニメの世界から子どもたちへ向けた食育を中心に考えていきます。その中で地産地消を目的に高知県産の食材を使った料理法の研究やアンパンマン弁当の研究、年に1回、アンパンマン弁当コンテストを開催するなど、子どもの好き嫌い解消に力を入れたイベント等の開催など、幅広く活動していきます。アンパンマンマネジメントコースでは、マンガ大国としての日本について理解を深め、海外に与える影響などグローバルな視点から捉え、それによる問題点や打開策を考えていきます。また、新しい商品開発や提案を主とし、マンガやアニメを利用したまちづくりや活性化を目的とした提案をさまざまな方面から考え、マネジメントできる知識と能力を養います。なお、アンパンマン生活コースについては、大学の先生から「食育に留まらず、子どもたちのことまでも学習できるなど発展性も十分にあり、そういった点からも評価できる」という温かいお言葉をいただきました。

私たちは1年間のマネジメント学習を通して、高知県の現状を垣間見ることができました。今回、アンパンマンの力を借りた高知の活性化を目標に調査研究し、提案した内容を実現するには、資金や立地場所等のさまざまな面において多くの問題点や課題があり、簡単に実現できるものではありません。しかし、この高知県の素晴らしい自然や偉人の足跡、おいしい料理など高知県には観光資源がたくさんあります。暖かい風土や高知の人々の素晴らしさを県外のたくさんの人々に触れてもらいたい、高知を活気のある町にしたい、そのためにはやはりアンパンマンという存在が必要不可欠であると考えます。高知県の明るい未来のために。